

# 令和3年度 琴浦町事業レビュー実施結果

1. 実施日 令和3年11月27日(土)

2. 対象事業 4事業

3. 参加町民評価員 町民評価員：26名

4. 評価基準（評価の例）

評価	評価の理由（例）
①不要・凍結	<ul style="list-style-type: none"> <li>○税金を使う必要なし（事業の廃止）</li> <li>○事業廃止を含めてゼロベースで見直す（事業の一時凍結）</li> <li>○事業の目的が既に達成されているため不要</li> <li>○事業や補助金の予算を執行することが目的となっているため不要（手段が目的化していると思われる）</li> <li>○事業の効果なし（薄い）・逆効果</li> <li>○サービス受給者の自助努力・自己負担</li> <li>○行政の役割終了、民間実施（税投入の必要なし）、他事業との重複など</li> </ul>
②国・県・広域で実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業規模が1町だけで行う規模でない（国・県・広域でのサービスである方が良い）</li> <li>○規模が広域なため、広域での一律のサービスである方が良いなど</li> </ul>
③要改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実態を把握する必要がある</li> <li>○効果が不透明</li> <li>○成果の捉え方を再検討する必要がある</li> <li>○事業の手法を大きく見直す必要がある</li> <li>○民間委託の実施・拡大をする方が良い（指定管理者制度を導入）など</li> </ul>
④拡充・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業目的に対して取組みが不十分</li> <li>○事業の目的が町の最優先すべき課題に対するもののため、より集中的に取り組む方が良い</li> <li>○現行制度に加えて、新たな制度、サービスを追加する方が良いなど</li> </ul>
⑤現行どおり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現状では見直しが困難</li> <li>○大幅な見直しは必要ない</li> <li>○現在の手法で概ね成果が期待できる（効果がある）など</li> </ul>

5. 評価結果

事業No	事業名	① 不要・凍結	② 広域で実施	事業内容の見直し			⑤ 現行どおり
				③要改善	④拡充・充実		
1	空き家ナビ運営事業	1	0	24 (4)	12 (3)	12 (1)	1
2	介護予防普及啓発事業	2	1	22 (4)	17 (4)	5	1
3	放課後児童クラブ	0	0	24 (4)	13 (4)	11	1
4	社会教育振興事業	0	0	19 (4)	13 (2)	6 (2)	5

6. コーディネーター、審議員

(1) コーディネーター

熊井成和氏（一般社団法人 構想日本 特別研究員）

(2) 審議員（外部有識者）

福嶋 浩彦 氏（元我孫子市長、元消費者庁長官）

野津 伸治 氏（鳥取短期大学教授）

伊藤 伸 氏（構想日本総括ディレクター、内閣府政策参与）

石田 恵美 氏（BACeLL 法律会計事務所 弁護士・公認会計士）



評価区分	評価結果	評価に添えられた意見
①不要・凍結	1	空き家の解体を進めていただきたい
②国・県・広域で実施	0	
事業の見直し	2 4 (4)	
③要改善	1 2 (4)	<p>●事業の手法、コストに関すること  <u>登録件数が少ないので、増やすために積極的に登録してもらえるように働きかけることが大切</u>(住民へのアピールの仕方、工夫が必要)／地区単位の空き家対策を住民とともにすすめる／町が改修し住むことのできる空き家を増やすことも検討／<u>空き家除却に対する経済的支援の充実が必要</u>(条件の緩和も)／<u>賃貸物件の空き家登録を増やす</u>(売却希望の物件でも、まずは賃貸の交渉)／ドローンで撮影して立地条件を見てもらう</p> <p>●目標と成果に関すること                  何が「地域の活性化」なのかを具体的にし、評価手法を明確にする必要がある／都市部からの移住者確保とあるが、町からの<u>転出を防ぐ</u>必要がある／「施策ありき」で町が事業をどうしたいか見えない</p> <p>●体制に関すること  <u>ナビ(ホームページ)運営は民間協働で良いのではないか?</u>行政は相談への注力が必要。相談内用や相談者の客観的なデータを取得できるような仕組みづくりが必要／町全体の問題なので再利用と解体の担当課同士での定期的な連携を望む／不動産事業者との連携が必要</p> <p>●対象者(ターゲット)に関すること  <u>定住希望者と町がターゲットとする人とのギャップを解消</u>する必要がある(ターゲットを変えることも検討)／子育て世代にとっては、価格設定が高すぎる気がする／定住のターゲットと琴浦町の魅力を一致させる</p> <p><b>審議員(外部有識者)の意見</b>                  何を解決すれば登録を増やせるのか十分に分析して取り組む必要がある／ターゲットをどうするのか。現在の移住者の移住理由とともに時代の変化も踏まえ、考えを深めていく必要がある／不動産事業者が持っている物件を空き家バンクに登録するなど連携を深めていく必要がある／特定空き家をいかに早く除却できるか、その対策もさらに進める／(空き家ナビを活用した)成約件数はとても多いと思う／行政のホームページをポータルサイトにして不動産業者のサイトへのリンクが良いのではないか(リンク条件の厳格化を行ったうえで)／移住に向けた相談に特化してもよい(実態をデータで分析)／空き家を減らしていくことや移住者のニーズを把握して、積極的に働きかける活動にも取り組むべき／賃貸物件の情報でもよいのだと認識することでもっと登録数を増やせるのではないか</p>
④拡充・充実	1 2	<p>●事業の手法、コストに関すること                  使われていない土地、地区との連携など町にある資産を活用して新たな事業(起業)に挑戦する方を支援して欲しい／<u>空き家の解体のための補助を充実</u>／町内外にかかわらず奨励金や補助金の拡充／成約の物件の保障をしては(成約件数が増加につながる)／耕作放棄地を活用し、移住者が家庭菜園を営むことができる制度を(老後を過ごす環境をPR)／<u>登録件数が少なく移住者にとって選択肢がないのでニーズに答えられていないと感じる</u>／物件データを定期的にリニューアルすることが必要／<u>移住される方が体験宿泊ができる物件を持つ必要がある</u>(売却物件のお試し利用も)／琴浦町の魅力発信について連携し、他市町村との差別化を図るためのホームページの充実を／売却意向のある空き家所有者を掘り起こす／"来る人"(移住希望者)への情報発信・対応の充実も必要だが、"居る人"(在住者)への取組も必要／「住」と「職」の問題は、コロナによりリモート環境が進み「住」のみだと思う。リフォームでの利活用などで流出を止め、移住を増やす施策が必要／<u>賃貸物件の空き家を増やす</u>(賃貸物件により定住前のワンクッションとなる)</p> <p>●目標と成果に関すること                  目的、目標を数値化などにより明確にし、成果の拡大を目指す</p> <p>●対象者(ターゲット)に関すること  <u>ターゲットを絞る(琴浦町の魅力を発信。子育て中の親へ教育・自然環境をウリにして)</u></p>
⑤現行どおり	1	高齢者は利便性の良い都市部を離れない／住む人の見通しの付かない家は解体する／山間部への交通手段(公共交通)の利便性が向上すれば住み手が増える



評価区分	評価結果	評価に添えられた意見
①不要・凍結	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業の手法、コストに関すること 1千万円をかけて実施しているが教室の効果が見えない(不要ではないか。ほんとうに効果があるのか。別の事業に変更した方が良い)</li> <li>●目標と成果に関すること アンケート結果などをしっかり分析して事業の効果を計り、効果を数値化(見える化)する必要がある</li> <li>●対象者(ターゲット)に関すること 高齢者クラブの参加増を図る(他町の民間運営教室には登録300人、日利用者120人ぐらいあるので琴浦町でのニーズを把握することも必要)</li> </ul>
②国・県・広域で実施	1	他の市町村との情報交換会などが必要
事業の見直し	22(4)	
③要改善	17(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現状・ニーズ把握に関すること 行政は利用者を増やしたいが、委託先は送迎なども含めて増やせない状況で矛盾している気がする/利用される方がどんな場を望んでいるのか聞く</li> <li>●事業の手法、コストに関すること 新規参加者、男性参加者が少ない現状について、<u>現状の活動内容が魅力が少ないため内容を検討</u>(事業内容が固定化している。教室の場所。こどもとの交流、昔の遊び。趣味的なもので繋がれる。)/<u>参加しやすいカリキュラムづくり</u>、教室運営の工夫/愛の輪活動の充実、つながりの強化・見守り活動/送迎支援にスクールバス利用ができないか?/委託金額について他町村との差がありすぎる(町民としてこの予算規模が妥当か疑問)/フレイル予防は社会参加が重要/<u>介護予防教室よりも地域でできるサロンの方が楽しいのでは?サロン、高齢者クラブへの補助要件を見直し</u>(5人以上、4回以上などの緩和。参加者が減っても支援する仕組み)/高齢者クラブの減少に対する基準の見直しと広く地域全体でも認めていく方向にして欲しい/<u>表現(介護予防教室などの名称)の見直しも含めて検討して欲しい(「介護予防」はネガティブなイメージ)</u>/日常的に集う場づくり、交流を促進する活動が地区公民館などが核となり行われるシステムを構築</li> <li>●目標と成果に関すること 介護予防教室を行って、結果どうなっているのか細かく分析する必要がある(利用者と利用していない人の差)/介護予防教室がゴールではなく、この教室を通じて元々地域にある活動への参加に戻っていけるような目標設定も必要かも(その場合、<u>老人クラブへの助成の充実</u>も併せて検討)/高齢化は絶対に進むのでうまく施策を進めることが必要/特に男性は自尊心が高く、認められることが動機となる(自分に介護が必要であると認めたくない方も多い)/事業の目的を見直し、人を集めるなら楽しむこと、きっかけの工夫をする/金額と成果の評価が難しい/参加者のみのデータで事業を評価するには無理がある(認知症予防の対策が全対象住民に及ぶような改善が必要)効果が不透明なため、結果を目で見るための調査が必要/</li> <li>●体制に関すること <u>教室への送迎が問題</u>(参加者の増加のためには送迎が前提条件で送迎の対応ができない事が問題)/民間委託は町内に受託事業者が少ないため、事業を効果的にしようと本気で思っているのが大切</li> <li>●対象者(ターゲット)に関すること 男性の参加も含め65歳以上の啓発で良いのか(世代、年齢の縦割りの打破が大切)/対象者に対する参加者が少なすぎる</li> </ul> <p><b>審議員(外部有識者)の意見</b></p> <p>できる限り参加者を輪切りにしないよう工夫して欲しい/本人の意思を大切にしてみてもっと自然形、さりげない形で子どもと交流できないか/客観的に役割と成果の見直しをして欲しい/委託料の積算が人単価になっている要因は不明確/この事業がどのような成果につながっているのかを分析し、行政にしかできない部分は何かを整理する必要がある/健幸なまちづくり全体像の中で、どのターゲットに対してどのように働きかけていくのか改めて位置付けを明確にすべき(高齢者クラブ、サークル、カフェ等の各施策全体のあり方を振り返る)/成果指標として認知症、うつ病の罹患率、高齢者の健康度の経時的な数値などの目を配れるものを使用することも検討してはどうか/利用促進は口コミも含めてやり方を工夫してはどうか(健幸アンバサダー、信頼できる身近な人、家族等)</p>

④拡充・充実	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現状・ニーズ把握に関すること 参加者の属性を調査、把握することで費用に見合う効果、質の高いサービスが提供できると思う／データを取り検証が必要／個人のニーズに込えているか</li> <li>●事業の手法、コストに関すること 国・県への予算増の要求／健康(頭・体)な老人を増やす方法を考える／漠然としたPRだけではなく、年齢を対象とした認知症検診体制があると良いと思う／もっと身近で予防教室をやって欲しい。そのために指導できる人を増やす。自治公民館でできたら最高です</li> <li>●目標と成果に関すること 介護教室が参加者の居場所づくりの機能ともなり得る／男性の参加を増やす必要がある／目標の明確化／様々な要因により介護が必要となるが、"認知症の早期発見"に対しての活動が不透明／"俺はまだ"という人の意識行動を変える必要があると思う／今後一番大切な分野だと思う</li> <li>●体制に関すること 既存のサービス・制度の充実を図るためのフォローと予算の増(送迎の車等)／送迎システムの問題可決を図ることで特色ある事業を展開できる</li> <li>●その他 指導者をやってみたいが資格は必要か？</li> </ul>
⑤現行どおり	1	名前と目的が異なっているが、介護を受ける立場であれば必要だと思う

評価区分	評価結果	評価に添えられた意見
①不要・凍結	0	
②国・県・広域で実施	0	
事業の見直し	24 (4)	
③要改善	13 (4)	<p>●現状・ニーズ把握に関すること  <u>保育の潜在的ニーズが存在する可能性がありニーズの把握が必要</u>／それぞれの校区の年少人口に見合う定員になっているのか(公平性に欠けているのでは)</p> <p>●事業の手法、コストに関すること            学習支援事業も浦安だけ実施されており公平性を確保するなら公立全てで行う必要がある／民間での長期休業期間児童クラブが好評であったのになぜ続けられないのか残念</p> <p>●目標と成果に関すること            具体的に達成可能な指標の設定が必要("健全育成"ではだめ)</p> <p>●体制に関すること            ニーズに応じた体制を整える必要がある／<u>民間委託の検討</u>(ニーズが上がる。支援員の確保がしやすい)／開設場所を未使用の保育園などに移したり数を増やして欲しい／人員確保、責任など難しい点はあると思うが、預けたくても預けられない人が居ることはなんとかして欲しい／支援員の高齢化やなり手不足の解消のために<u>雇用方法を改める</u>／町と学校、教育委員会との制度上の壁を感じ、事故等があったときを考えた対応となっている(責任のなすり合いのような)／人材不足はシニア世代など支援員育成も大切だが地域の力の活用も有効では?／運営は町や民間の勝手ではなく、子どものニーズに合わせて見直して改善／指導員、補助員の募集内容を明確にしてもっとやってほしい／子ども教室と合同な形での活動には人材的に難しい／主任指導員など各施設のリーダーとなる人材の育成と給与の保障が必要</p> <p>●対象者(ターゲット)に関すること  <u>利用対象、条件の再検討が必要</u>(学年で受入を決めるのではなく、通いたい子どもは全て受入れる体制、予算、人材を確保)／時代のニーズにあった預かり方法の検討(高齢者では現代の子どもの対応は難しい)／児童1~6年全員が入れるかどうか施設と人員の限りがあり、断ったり、自主的に辞退されているのが現状で、必要な児童が利用可能な財政的支援が必要</p> <p>●その他            特性のある子どもも多く学校、児童クラブにお任せである親も多い、保護者の保育支援、相談体制が本事業のもう一方が必要。家庭環境の支援と子どもの育成が両輪となって施策が進められるべき／高度な教育などのニーズに応えるなら各小学校の児童全員を対象にしなければ教育の格差が生まれてしまう</p> <p><b>審議員(外部有識者)の意見</b>            待機児童は確実に解消して欲しい／放課後子ども教室との連携も検討して欲しい(放課後児童クラブのこどもたちに子ども教室のメニューへの参加を強制することのないように)／大胆な発想で進めて欲しい(一体化ではなく。子どもたちに"子ども教室"への参加を強制するものであってはいけない。)／学校内に設置されている児童クラブでは校庭での遊びができるようにして欲しい／実態把握をしっかりする(クラブ、長期休暇時、学習支援、公立、私立、児童、保護者)／放課後児童クラブのスタッフの雇用方法について弾力的な運用を期待する(雇用の仕方、処遇、指導員の人財育成)／他の先進的な取組を公立でも取り入れては?／放課後児童クラブを必要とする潜在的なニーズがある可能性があるため調査が必要／目的を保育から自主性や社会性を養うことにシフトするなら利用要件の緩和が必要／指導者のなり手の選択肢を拡げていく(留学生による英語教育など意外に資源は多くある。固定概念にとらわれることなく、なり手探しが必要)／琴浦町らしい子どもの育成という視点から制度の見直し(放課後児童クラブ、子ども教室、こども塾など他の事業との運用)／長期休暇期間中に限らず民間委託業者の利用も検討</p>
④拡充・充実	11	<p>●現状・ニーズ把握に関すること  <u>待機児童はいる(ニーズはある)と思うので対応していただきたい</u>／放課後児童クラブでの過ごし方に保護者は満足していない(児童クラブで宿題をやってこな</p>

			<p>い。楽しくない等)／校区ごとで定員に対する不平等が見られる／支援員の人手不足により満足度が実際は低くなっているのではないか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●事業の手法、コストに関すること <p>「<u>見てもらえるだけでもありがたい</u>」と思っていたが、<u>民間の放課後児童クラブのように英会話、そろばんだったり週に何回かでも教室があるとよい</u>(お金を別に払ってでも利用したい)／子どもの育成といった観点での活動内容(校庭での遊び等)の工夫が必要／学習支援事業を一箇所から増やす(現在、浦安のみ)／子ども教室との月1～2会の合同事業は面白いアイデアだと思う</p> </li> <li>●体制に関すること <p>民間への委託をするのかどうかを明確にして、民間に委託するのであれば、積極的に取り組んで良いと思う／特性のある子どもに対して、民間の放課後デイサービスを誘致して受け皿を作る／主任リーダーの仕組みの導入(行政は指導又は育成)／特性のある子どもに対して指導員の配置増が必要ではないか／人の確保について、町できちんと雇用／老人クラブや団体の力を借り、町としてこどもを育てることができれば良いと思う／支援員の研修を年に数回実施(民間も参加。特性のある子どもへの対応も勉強)／(行政は)民間の受け皿をつくることにも関わりを持って欲しい</p> </li> <li>●対象者(ターゲット)に関すること <p>小学校4～6年生も対象にする (<u>利用できる条件の見直し</u>。保護者等が家に居る児童も受入をできるように制度を変える。児童館の設置、職員の確保、旧保育園の活用)</p> </li> <li>●その他 <p>特性のある子どもに対して社協での児童クラブ(放課後デイサービス)の存在を知ってもらうことも必要／放課後に安心して帰る場所があるのは大切なこと。そこで宿題も見て友達との遊び方も適宜指導してもらっている／安全面の確保ができていないのなら外遊びがさせてあげられなのは保護者にも説明しておけばよい。無理に外遊びを実施して何かあってからでは遅い／放課後児童クラブの利用時間の見直し(保護者の仕事の時間を考慮したものに)</p> </li> </ul>
⑤現行どおり	1		<p>国の方針で"こども庁"が発足されようとしている現在、その流れに沿った変更も今後必要になるかも知れない</p>



評価区分	評価結果	評価に添えられた意見
①不要・凍結	0	
②国・県・広域で実施	0	
事業の見直し	19 (4)	
③要改善	13 (2)	<p>●現状・ニーズ把握に関すること ターゲットは年代別、それぞれの事情やニーズがあるので把握が必要／社会教育を全町、全世代を対象とするのであれば、広く情報収集の分析をする仕組みが必要</p> <p>●事業の手法、コストに関すること 公民館任せになっている／子どもの見守りは一体化を願う／カウベルホールのような文化発表の場が必要／<u>学びたい想いがあっても学ぶ場がない分野への支援も考えられたらと思う(講座や事業を開催し、スタートを後押しする体制が必要)</u>／"女性教室"で料理教室などをされているけれど、女性に限定する必要は無い(男性も参加できた方がよい。)／地区ごとに独自に行われているよい事業は町全体への展開を望む(乳幼児教室、"水曜寄り道クラブ"、放課後子ども教室など)／40、50代から運動の習慣を付ける必要がある(赤碕地区に簡単なスポーツ施設があるとよい)／地域のコミュニティは誰でも参加しやすいものか(毎回、同じ顔ぶれよりいろいろな人が参加できたら良い)／町民全体にきちんと認識されていないと興味がある人も参加できない(情報発信が重要)／放課後子ども教室は週1回であり放課後児童クラブに行けていない子どもの受け皿となっていない(行けない子どもが行けるように統一しなければならない)／類似した事業は見直しを検討しては</p> <p>●目標と成果に関すること 対象、目的、指標が全体的に整合性が乏しい／どの世代でも何かの形でつながっていることが長い目で見れば大切／目的の"学びの成果が社会に活かされること"とあるが、成果として対応する指標がない／"楽しく学び、自分を高めたい人"を巻き込んでいるか／成果として人数以外に質的評価を明らかにすることで実効性のある事業となるはず</p> <p>●体制に関すること 社会教育振興事業と放課後児童クラブの縦割りの解消ができないか／各課と連携を取り事業を実施していく必要がある／地区公民館と地域づくりへの関わりが必要</p> <p>●対象者(ターゲット)に関すること 今の地域を支える青年世代の人材育成について社会教育は具体的にどう働きかけているか見えない。琴浦町を支えるリーダー育成施策が必要／中高生の対象事業も必要(長期休業中に実施を検討)</p> <p>●その他 地域でこどもを育てることは高齢者にも必要だが、現実にはできていない。歩いて行ける範囲でそれぞれの活動や学びが必要／高齢者は免許返納を誰しも考え移動手段の改善が必要</p> <p><b>審議員(外部有識者)の意見</b> 社会教育課が学校以外のこどもへの責任を持つことを庁内で共有する／放課後子ども教育を児童クラブと一緒に考えていく／中・高校生と地域を繋ぎ続けることは何かあった時の支え手にもなる／まなびタウンを活用しながら仕掛けを考える／放課後児童クラブと放課後子ども教室など次世代ことうらっ子育み推進事業との一体化や連携を図れないか(組織体制を見直してはどうか)／カリキュラムやイベントの内容についてももう少し世界のこと、デジタル分野も取り入れてはどうか／ソーシャルキャピタルの形成の観点からも町民全体の中での参加率の向上を図る視点があってもよいのではないかと／中学生以上へのアプローチは是非検討してください</p>

④拡充・充実	6 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業の手法、コストに関すること できれば動画配信などで町の文化資産を多くの人に知っていただきたい／小中学生にも町政を学ぶ機会を提供してはどうか／学びとして町中ウォーク(地域の歴史を知る)をしてはどうか／児童クラブと子ども教室のようなものをぜひ一体化したサービスにして欲しい／生涯学習という観点から見ると例えば放課後支援員の養成講座など資格取得に向けた講座などがあると良いと思う／講座の計画が不透明なので人材発掘という面では住民発信の企画などがあれば活気づく／学びたいと思わせる魅力ある事業を進めて欲しい／先人達の技術、技能、生活、くらし、遊びなどの聞取りのほか映像で保存</li> <li>●体制に関すること 他事業との連携が必要／官民連携して出前講座を開催できないか</li> <li>●対象者(ターゲット)に関すること 外国人などを対象とし、他者への理解なども深まることが期待される／在住外国人を対象とした事業の推進と団体設立(サークル活動、交流活動、日本語教室、異文化交流等)、教育支援、生活支援、地域コミュニティの構築</li> </ul> <p><b>審議員(外部有識者)の意見</b> 社会教育の対象者、年代、事業が現状で十分かどうか不明(固定化している。薄く広くしてみてもどうか)／既存の取組も参加者数のみで成果として確認が不十分ではないか／子どもに偏っているので年代のバランスも考えて社会に拡げて欲しい／</p>
⑤現行どおり	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業の手法、コストに関すること 地域とつながる方法が必要</li> <li>●目標と成果に関すること 各事業毎の目標値、成果を明確化(数値化)し事業ごとに必要性を判断することが必要</li> <li>●その他 広報誌などでも案内があってありがたい</li> </ul>

評価区分	評価結果	評価に添えられた意見
①不要・凍結	0	
②国・県・広域で実施	0	
事業の見直し	19 (2)	
③要改善	16 (2)	<p>●実施主体に関すること</p> <p>○企業等との連携 地域や企業への委託、補助金などにより改善／町内の企業と連携した除雪（建設事業者が減っている分、他の企業や団体を支援）／建設事業者以外の除雪作業の受け手を検討（降雪による仕事が減る農家との親和性は高い）</p> <p>○地域住民等との連携 行政だけでは効果的な除雪はできないので、町民とのコミュニティでの対応が必要（行政は各地区に出向いて意見交換を行うべき）／地域での協力体制がとれるような仕組みが必要／自治会内の狭い道路は集落に依頼し、機械の貸与等も検討／民間活力や地域への助成のあり方の再検討／私道などの管理は自治会へ委託</p> <p>●目標、成果に関すること どのくらいの除雪までは町でやるのか目標を整理／目的に記載された通学路の除雪対応に対する評価、確認が行われていない／事故ゼロも大切な項目だが、スタックした車が家から出られないことなども指標となる。／アンケートなどにより出勤、登校が安全に出来ているかどうかの把握が必要（成果目標の基準は日常生活に支障を来さないこと）／担い手が不足するなか、目標人数が減っており、実際に補助金を利用する人も減っている／雪質で除雪時間に差が出ることは当然だという考え方は住民サービスは向上しない／不満を分析し満足度の改善を行う／通学路の安全確保の評価が不明確／住民の希望する時間と実際の除雪が完了する時間はどれくらい異なるのか</p> <p>●広報、周知に関すること 町行政の除雪路線を周知し、住民をはじめ自治会で出来ることは実施するべきという考え方を働きかけることが重要ではないか／「いつ除雪してもらえるのか」という情報がある程度の周知が必要／除雪対策事業に関して「できること」と「できないこと」を十分に広報（周知）／除雪機の借上げ料が補助対象になる場合、除雪機の取扱業者を公表／自治会への補助金について情報発信が不十分で認知されていない／除雪に関する町民への情報提供と積雪時の対応情報を町民と共有する（システムも検討）</p> <p>●手法に関すること 積雪状況を見て除雪して欲しい／除雪の完了時間が遅れることが常態化していれば、区長などに説明。除雪ルートの変更を考える／除雪機を新規に導入する／他課との連携も必要／作業開始時間の再検討／通学路について教育委員会との連携が必要／回数が多いのであれば基準(5～10cm)の変更／対象路線でなくても多い積雪の場合は除雪を行う／除雪後の路肩は通学に危険なため改善が必要</p>
④拡充・充実	3	問題発生時に防災無線等を利用し、自治会を通じ共助による通学路、生活路を確保する／自治会（コミュニティ）に頼る場合、除雪機械の購入補助が必要／自主防災組織があるので連携することも重要／除雪更新計画をしっかりと立てる必要がある／オペレーターの増員のための助成／ <u>企業、地域住民への協力依頼</u>
⑤現行どおり	2	自分たちも協力(奉仕)しなければならない／現状では見直しが困難